

# 伊都キャンパスの生活状況等に関するアンケート結果の概要

令和3年3月

九州大学キャンパス計画室

福利厚生施設WG

## 1. 調査の目的

伊都キャンパスに通学している学生の生活状況等に関する調査を毎年度実施し、学生の生活状況等の現状や経年変化を把握することを目的とする。その結果をもとにして、キャンパス内における学生生活支援施設の運営や周辺地域における生活利便施設の立地促進・交通利便性の向上に取り組む。

## 2. 調査対象

伊都キャンパスに通学する学生 約14,000名

- ・学部1年生
- ・共創学部、文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、農学部及び21世紀プログラム課程の2年次以上の学生
- ・人文科学府、比較社会文化学府、地球社会統合科学府、人間環境学府、法学府、経済学府、理学府、数理学府、システム生命科学府、工学府、システム情報科学府、生物資源環境科学府及び統合新領域学府の大学院生

## 3. 調査期間

令和2年12月1日～令和2年12月31日

## 4. 調査方法

学生ポータルシステム、掲示等にてアンケートの周知・協力依頼を行い、対象学生自身が九州大学eラーニングシステム(moodle)にアクセスし、Web上で回答

## 5. 回答結果

- (1) 回答数 612人 回答率4.4% (前回4.3%)
- (2) 回答者属性
- |      |              |
|------|--------------|
| 学年   |              |
| 学部学生 | 498人 (81.4%) |
| 修士課程 | 77人 (12.6%)  |
| 博士課程 | 37人 (6.0%)   |
| その他  | 0人           |
- 性別
- |    |              |
|----|--------------|
| 男性 | 343名 (56.0%) |
| 女性 | 257名 (42.0%) |
- 回答しない 12名 (2.0%)

## 6. アンケート回答結果の概要（前回H30年度との比較）

### （1）通学について

- ① 通常時の通学方法は、自転車が1番多く42.2%（前回:33.2%）、次いで徒歩のみ12.3%（前回:13.0%）、昭和バスのみ10.0%（前回:8.0%）の順となっており、自転車、徒歩のみ、昭和バスのみ、バイクのキャンパス周辺に住んでいると考えられる通学方法の割合が増加している。また、雨天時の通学方法においても、昭和バスのみ29.2%（前回:21.6%）、徒歩のみ22.1%（前回:20.7%）の割合が増加している。

H30.10月の移転完了から約2年が経過し、キャンパス周辺への居住が定着しているものと考えられる。

#### ■通常時の通学方法（1～5位）

今回(R2年度)		前回(H30年度)			
1	自転車	42.2%	1	自転車	33.2%
2	徒歩のみ	12.3%	2	西鉄バス	15.1%
3	昭和バスのみ	10.0%	3	バイク	14.8%
4	バイク	8.8%	4	徒歩のみ	13.0%
	地下鉄+JR筑肥線+昭和バス	8.8%	5	昭和バスのみ	8.0%
周辺からの通学割合		73.2%	周辺からの通学割合		68.9%

通学にバスを利用する割合は、通常時は30.7%（前回:32.3%）、雨天時は55.2%（前回:54.9%）であり、通常時は前回より割合が減少しており、雨天時の増加率は、約1.8倍（前回:約1.7倍）で増加している。

- ② 通学利便性を向上させる対策としては、「鉄軌道系の導入19.6%（前回:19.0%）」が1番多く、次いで「平日におけるバスの増便等の充実17.2%（前回:17.7%）」、「夜遅くまでのバス運行13.1%（前回:16.7%）」、「土日祝日におけるバスの増便等の充実12.5%（前回:15.5%）」となっており、前回と同様の結果となった。
- ③ 平均的な登校時間帯は、1限目開始(8:40)前が24.3%（前回:46.1%）、2限目開始(10:30)前が27.3%（前回:44.8%）であり、2時限目開始前に登校している学生は約50%（前回:約90%）と減少している。一方で、3限目開始(13:00)前が27.5%（前回:7.1%）と増加しており、登校時間が分散化している結果となった。

また、平均的な下校時間帯は、4限目終了後である16:20～17:00が最も多く24.5%（前回:31.7%）、次いで、17:00～18:10が14.7%（前回:16.4%）、その他は18:10～22:00の間に分散しており、前回と大きく変わらない結果となった。

なお、コロナ禍で登校していないと回答した学生は約10%であった。

## (2) 住居について

① 現住所は、元浜・九大新町15.4% (前回:13.4%) とドミトリー・協奏館8.3% (昨年度:8.9%) を合わせるとキャンパス近隣に住んでいる学生が23.7% (前回:22.3%) で最も多くなった。次いで、前回と同様に九大学研都市駅周辺18.8% (前回:14.9%)、周船寺駅周辺10.9% (前回:8.9%)、泉・富士見・田尻7.5% (前回:6.2%) となっており、これらの地域を含めれば、福岡市西区西部地域に住んでいる学生は約64% (+約8%) と増加している。

一方で、西区西部地域を除く福岡市内に住んでいる学生が20.4% (-約5%) と減少しており、キャンパス周辺への居住が定着している結果となった。

### ■エリア別居住率

エリア	今回 (R2年度)	前回 (H30年度)	差
福岡市内(西区西部以外)	20.4%	25.5%	-5.1%
福岡市西区西部	64.1%	56.1%	7.9%
糸島市	10.0%	12.1%	-2.1%
その他(福岡市外・糸島市外)	5.6%	6.3%	-0.8%
	100.0%	100.0%	

### ■増加率

エリア	今回 (R2年度)	前回 (H30年度)	差
九大学研都市駅周辺	18.8%	14.9%	3.9%
周船寺駅周辺	10.9%	8.9%	2.0%
元浜・九大新町	15.4%	13.4%	1.9%
・			
・			
博多区	1.3%	2.9%	-1.6%
東区	3.8%	6.3%	-2.6%

② アパート・マンションの決定にあたっては、家賃15.4% (前回:14.8%) が一番多く、次いで、大学からの距離13.0% (前回:14.8%)、インターネット設備11.0% (前回:9.7%) を重視する回答が多く、次いで、バス・トイレの別10.6% (昨年度:11.1%)、広さ8.2% (昨年度:10.3%) と続き、前回と大きく変わらなかった。

③ 自宅周辺に必要な施設としては、スーパー15.7% (前回:17.1%) が一番多く、次いで、飲食店12.9% (前回:12.6%)、書店12.5% (前回:8.1%)、娯楽施設11.0% (前回:8.1%)、銀行・郵便局7.6% (前回:10.7%) と続き、生活面での利便性と都市としての賑わいが重視されている。

キャンパス近隣に住んでいる学生は、スーパーや飲食店の割合が多く、九大学研都市駅や周船寺駅周辺では、書店や娯楽施設の割合が多くなっている。

④ 居住地の周辺環境については、半数以上 (53.9%) が満足しており (前回:49.5%)、理由としては、スーパー・コンビニの近さ、交通の便、生活利便施設が多い、大学に近いなどがあげられている。

### (3) キャンパスでの生活について

- ① 伊都キャンパスとその周辺の施設に「非常に満足している」及び「満足している」の割合が25.5% (前回:13.6%) であり、キャンパス整備や周辺まちづくりの進展により、満足度が高まっているものの、依然として、「不満である」及び「非常に不満である」の割合の方が42.9% (前回:63.2%) と多くなっている。
  
- ② キャンパス内に必要な施設については、「休憩したり友人達と談笑できる場所」が28.9% (前回:25.1%) が最も多く、次いで「気軽に体を動かせる場所」が20.3% (前回:18.4%)、「大人数で集まれる場所」が15.3% (前回:15.5%) であった。
  
- ③ キャンパス周辺に必要な施設については、「スーパー」が19.7% (前回:17.0%) と最も多く、次いで「飲食店」が15.7% (前回:15.7%)、「娯楽施設」が10.7% (前回:11.1%) であった。
  
- ④ 課外活動の場所は、伊都キャンパス及び周辺が47.8% (前回:56.7%) で最も多く、部活やサークルに所属していない割合36.8% (前回:23.4%) が増加している。  
また、アルバイトの場所は、福岡市西区が24.3% (前回:25.6%) で最も多く、福岡市中央区及び博多区が13.1% (前回:24.2%)、伊都キャンパス内が4.3% であり、アルバイトをしていない割合38.2% (前回:28.5%) が増加している。

### (4) その他の意見（自由記載欄）について

- ① 記載された全ての意見を「交通」「学内施設」「周辺環境」「その他」に分類した結果、「交通」が38.8%、「学内施設」が24.3%、「周辺環境」が30.4%、「その他」が3.2%であった。
  
- ② 「交通」については、運賃を安くしてほしいという意見が最も多く、次いでバスの本数を増やしてほしいという意見が多かった。特に休日運行に関する意見が多かった。
  
- ③ 「学内施設」については、売店・コンビニや飲食店（食堂等）を充実してほしいという意見が最も多く、特に営業時間に関する意見が多かった。「周辺環境」については、伊都キャンパスの近くにスーパーを誘致してほしい等の意見が最も多かった。

自由記入欄には、397名（回答者の65%）の学生からたくさんの意見をいただきました。伊都キャンパスでの学生生活がより良いものになるように、いただいた意見をしっかりと受け止めて、今後の取組みに活用したいと思います。

交通については、バスの運賃や運行本数等に関する意見が多くみられました。今年度はコロナ禍でバス利用者が大幅に減少するなど、昭和バスや西鉄バスが厳しい経営状況であることを踏まえ、路線の維持確保を図るため、需要に応じたダイヤへの見直しを段階的に行っております。引き続き利用状況の変化に応じて、各事業者と協議を行いながら、適切な輸送力（便数）の確保に努めてまいります。

バスや鉄道など公共交通を主軸とし、多様な交通手段が相互に連携した交通ネットワークが必要であると考えており、AIなど新たな技術やサービスを活用し、交通に関する事業者と連携しながら、交通環境の改善に向けて取り組んでまいります。

学内施設については、売店・コンビニ、飲食店の充実を求める意見がみられましたので、いただいた意見を踏まえ、学内施設の充実に向けて検討して参ります。

周辺環境については、昨年度に引き続き、伊都キャンパスの近くにスーパーを誘致してほしいとの意見を多くいただきました。キャンパス周辺の関連団体とのまちづくりの取組みを通じて、スーパーの立地要望を伝えるなどの取組みを進めてまいります。